

<p>学 目 標 教 育</p>	<p>人間尊重の精神に徹し、自ら考える力と、創造的な知性、及び実践力を養い、調和のとれた人間の育成を目指す。</p> <p>『自主・自律の精神に徹する』</p> <p>『真摯な態度で自己目標の実現に努める』</p>	<p>総合評価</p>	
<p>中 長 期 的</p>	<p>学校教育目標に則り、地域から信頼され、地域に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>1 地域に開かれた学校づくりを進め、地域の信頼を高める。</p> <p>2 自らが学ぶ学校を誇りとし、自己目標の実現に向かい主体的に取り組む生徒を育成する。</p> <p>3 全人教育を進め、クラブ活動など生徒の自主活動をさらに活性化することを目指す。</p>	<p>・今年度本校に整備されたWi-Fiや電子黒板、タブレットPCなどを積極的に活用し、わかりやすく丁寧で、生徒の学習意欲を喚起する授業づくりを進めた。来年度以降は、この状況を発展させ、学ぶ楽しさを実感できる生徒の増加を目指し、質の高い教育を提供できるように学校全体で取り組む。</p> <p>・幅の広い進路希望に対応した指導を行うことができた。一般入試での大学進学を希望する生徒の増加に対応し、補習や冬季の特別授業を実施するなど、例年と異なる進路希望の変化にも対応した。今後も生徒や保護者、地域や社会のニーズに寄り添った進路指導を進めていく。</p> <p>・「探究的な学習の時間」や高大連携事業での学びを学校行事と結びつけ、学習成果を拡大することができた。就労体験「ひろがれわたし」では、単なる就労体験としてでなく、「なぜはたらくのか」をみつめ、その考えを発表するという例年になく成果が見られた。</p> <p>・PTS協議会・全校PTSを通じて、生徒自らが冬服期間の服装規定の改正を提案し、改定した。生徒が学校規則の改定に直接携わることで、規範意識の向上につながった。</p>	
<p>今 年 の 目 標 重 点</p>	<p>1 生徒一人ひとりが自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり</p> <p>2 学ぶ楽しさを実感し進路の希望を実現できる学校づくり</p> <p>3 いじめや体罰のない、安全・安心な学校づくり</p> <p>4 生徒の人権を尊重し、保護者・地域に信頼される学校づくり</p>	<p>成果と課題</p> <p>公開授業に多くの中学生をはじめとする参加者を迎えることができた。授業改善を推進している本校の学びを見ていただく機会になった。今後も、本校で行われる主体的で対話的な授業や、その学習成果をより多くの人に見ていただく機会を設けていきたい。</p>	<p>次年度にむけての改善策・向上策</p> <p>他校の実践発表や研修に参加した教員を中心に「探究的な学び」に向けた授業改善を進めている。来年度から新設される学習指導係を中心に、校内での研修会等を実施し、すべての教員が授業改善に取り組めるための支援をしていく必要がある。生徒が受け身にでなく、主体として授業に参加し、「考える時間」を重視する授業改善を推進していく。</p>

《教育活動領域》

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
<p>教育課程</p>	<p>1 2</p>	<p>コースの特色に応じた取り組み</p>	<p>・生徒一人ひとりの進路実現に向けた系・講座の選択をさせる指導を行い、系列講座編成に対してスムーズな編成と工夫ができたか。</p> <p>・「探究的な学び」の視点を持ち、コースの特色を活かした少人数講座や授業内容の工夫を行うことができたか。</p>	<p>・進路講話等による生徒の進路意識の形成に努め、生徒との面談を通じた系・講座の選択により、進路別講座を展開することができた。一方で、生徒の進学に対応する教育課程を展開できているが、今後開設講座の見直しに取りかかる必要がある。</p> <p>・福祉、保育、スポーツなどの授業において、コースごとの特色を活かして、少人数講座による授業展開ができていた。「探究的な学び」も含めて校内で検討していく担当部署を設けることができたが、今後「探究的な学び」の視点をコースの特色に加えていくことが課題である。</p>	<p>・教育課程の編成に関して、継続的に検討するとともに、コース制のあり方の検討と新教育課程の編成。</p> <p>・「探究的な学び」の視点を踏まえて、コースのあり方とその特色に応じた授業内容の研究と深化。</p>
	<p>1 2</p>	<p>高大連携事業の推進</p>	<p>・信州豊南短期大学、松本大学との高大連携事業において、関係する分掌・教科で連携した計画・業務遂行をスムーズに行い、内容をより充実させることができたか。</p> <p>・学習成果発表会を通じて成果を全校生徒や保護者、地域に発信することができたか。</p>	<p>・高大連携委員会がまとめ役となり、教科間で連携して事業を展開することができた。連携事業の活性化により参加する生徒が多くなっているが、通常授業の欠かが増えることとなり、課題となっていた。</p> <p>・近隣施設での学習成果発表会の実施により、保護者や地域への参加を呼びかけることができ、本校での学びの成果を多くの生徒が共有できるとともに、校外へ発信することができた。</p>	<p>・通常授業への影響を減らすための連携と日程調整を行っている。</p> <p>・全生徒が参加できる学習成果発表会にしていくとともに、中間発表等も取り入れながら、学びの成果を発信する機会を充実させていく。</p>
<p>学習指導</p>	<p>1 2 4</p>	<p>授業の改善と工夫</p>	<p>・「丁寧でわかりやすい授業」を目指し、生徒の学習意欲を喚起できるような授業内容の工夫やICT機器の活用を図ることができたか。</p> <p>・「探究的な学び」に関する研修等を実施し、教師間の授業公開・研修を通して、授業改善に向けた努力ができたか。</p> <p>・各学年・クラス・講座等での情報交換会を行うことで生徒理解を深め、個々の授業展開を考える契機にすることができたか。</p>	<p>・電子黒板やタブレット端末などのICT機器、また同窓会の協力により設置されたWi-Fi環境などを有効に活用して、授業内容の工夫や学習意欲の喚起に向けた取り組みが行われつつある。ICT機器の有効活用も含めて校内で検討していく担当部署を設けることができたが、今後学校全体としての取り組みにしていくことが課題である。</p> <p>・「学年での「総合的な探究の時間」を足掛かりに「探究的な学び」に取り組む始めたが、今後校内での研修会等、全ての教員が取り組めるための手立てについてより工夫を図っていく必要がある。</p> <p>・学年会での情報共有により、生徒理解を踏まえた授業を個々に展開することができた。</p>	<p>・全職員が改善と工夫の意識が高められるよう全体的な協議を深めるとともに、ICT機器の利用に関する研修の工夫を図り、有効的な活用を推しひろめる。</p> <p>・「探究的な学び」に関する研修や相互参観を通して理解を深めるとともに、実践へ向けて教科及び学校全体で手法を模索し、「総合的な探究の時間」の全学年での実施並びに新教育課程への完全移行に必要な態勢を整える。</p> <p>・各係と連携し、生徒個々の特性に応じた教科指導のあり方を構築する。</p>
<p>1 2 4</p>	<p>基礎学力の補充と進学希望者の進学意欲を向上させる取り組み</p>	<p>・進路・学習関係の取り組みを中心に、本校の生徒の状況を理解して、基礎学力の補充について具体的に取り組むことができたか。</p> <p>・進学希望者に対して、進学補習を活用して進学意欲の向上を図ることができたか。</p>	<p>・進路実現に向けた小論文対策や面接指導を行うとともに、学力補充の補習を実施することができた。しかしながら、生徒の学習状況をより深く分析した上で、学力定着に向けた手立てを構築する必要がある。</p> <p>・進学補習への参加者は増加し、また継続的に取り組んでおり、進学意欲を向上させることができたと言える。</p>	<p>・学力の定着に向けて、教科間の連携や生徒の学習プロセスを理解した補習等のあり方を考える必要がある。</p> <p>・進学希望生徒の進路実現へとつながる補習への転換。</p>	

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策	
進路指導	1 2 4	進路意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・早め早めの対策を立てることによって、1、2学年の生徒の進路意識を高めることができたか。 ・保護者と最新の情報を共有できたか。 ・進路指導室を生徒が有効活用できる場として整備できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に総合探究・総合学習・LHRの計画を立てることによって、系統立てた指導ができた。 ・冬の三者懇談会に向けて資料を用意したが、希望懇談だったため、すべての家庭に届いたかは定かでない。 ・生徒が気軽に進路指導室を訪れることのできる雰囲気をつくるとともに、常に整理整頓を心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスや講演会を行う際に、目的を事前に伝え、より主体的な参加を目指す。 ・懇談会に必要な資料について、学年の意向を採り入れたい。 ・書籍や資料の配置を工夫して、生徒が閲覧しやすいように改善したい。 	
		1 2	キャリア教育を軸とした「総合的な探究の時間」や「総合的な学習の時間」のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ・職業調べ学習や「ひろがれわたし」が職業理解を効果的に高めたか。 ・外部機関との連携が職業観の育成につながったか。 ・3学年の「総合的な学習の時間」が、生徒の進路実現に向けて効果的な形で運営されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「職業調べ学習」や「ひろがれわたし」について、事前事後学習の充実を図った。特に発表の場を設けることで、より主体的な活動となった。 ・ハローワーク、株式会社つなぐ、高校生の企業研究会実行委員会などの協力の下、適切な時期に指導ができた。 ・3学年の「総合的な学習」について、毎週の学年会で進捗状況や次時の予定などを確認しながら、効果的に運営できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひろがれわたし」については、単なる就業体験ではなく、探究活動の一翼を担う形となっている。今後、そのあり方については再考の余地がある。 ・各団体が配付している資料について、より効果的な利用方法を考えたい。 ・内定後や合格後に有意義な時間を過ごせるように指導したい。
		1 2	進路実現に向けた入試・就職試験への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のニーズに応えた補習や模擬試験を展開できたか。 ・小論文や面接の対策が十分にされたか。 ・一般入試に臨む生徒への支援が十分にされたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に公務員向けの補習については、大原学園の協力の下、目に見える成果が出たことで、下級生に良い刺激となった。 ・3学年の生徒について、志望理由書・小論文の指導や面接練習を、多くの先生方に協力していただき実施することができた。しかしながら、一部の生徒は事前準備が不十分であった。 ・一般受験の生徒のための特別授業を行うことができ、その効果が現れ始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模試については、年度当初に年間計画を生徒に示し、クラブ活動と共存できるようにしたい。 ・早めに受験準備ができるように生徒に促したい。 ・特別授業の総括をして、次年度につなげていきたい。
生徒指導	1 3 4	1 3 4	対話の重視による生徒理解と家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との対話が的確にされ、生徒理解の意識を持って指導ができていくか。 ・ガイドラインの周知や生徒への指導について、保護者の理解や協力は得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の声掛け等により一定の人間関係を構築することでスムーズな対話ができるように努めた。 ・服装規定等をメールで配信することにより保護者の方への周知を工夫することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も生徒との対話を重視し、適切な指導と家庭との連携がとれるようにしたい。 ・必要なことが保護者の方に周知できるよう更に方法を工夫したい。
		1 2	学習習慣・学習環境の整備と確立	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習規律」等の指導により生徒が力を発揮できる学習環境を整えることはできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境については生徒の意識が高くなってきている。しかし、携帯電話を授業とは関係のない使用で預かりとなる生徒もおり注意が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にすることを生徒自身が持てるように指導方法を工夫する。
		1 3 4	身だしなみ等、校内規則に対する規範意識の醸成と確立	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや校内の規則について、生徒自身が理解し自ら規範意識を持つ指導をすることができたか。 ・いじめのない学校作りができていくか。 ・自転車事故や盗難等、生徒にかかわる事例に対して効果的な指導はできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみについて、PTS協議会を通して冬服期間の服装規定が改正となった。生徒自らが規定の改正に携ったことは規範意識の向上につながった。 ・いじめについては、加害と被害が明らかでない場合等、複雑な人間関係が背景にあり、より丁寧な指導が必要となってきている。また、SNSを介した友人関係のトラブル等は目に見えないことから今後も注視が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故や盗難等は気を緩めることなく恒常的な注意喚起が必要である。特に、物品の管理については粘り強い指導が必要である。 ・引き続き、係内はもとより学年や職員による情報共有によって、多様化する生徒に対する柔軟な支援ができる体制を整えたい。
特別支援教育	1 2	特別支援教育の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の生徒情報共有の策が定着し、必要に応じた早期対応ができたか。 ・対象生徒への適切な支援が行えたか。 ・家庭・医療機関・地域の支援センターなどと連携し、支援を進めることができたか。 ・職員研修を行い、個々の生徒に応じた支援を知り、支援体制づくり等に役立てたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の共有については、日常的な活用には至らなかった。 ・学年会、教科担当者会等で、職員間の情報共有を行うことができた。 ・外部専門機関と連携し、支援を行った。 ・職員研修では、特性に応じた支援について理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の共有について、有効な手段を検討する。 ・生徒理解をさらに進めるため、外部専門機関の定期的な活用を図る。 	

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
生徒会	1	生徒の主体的活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会スローガン“Just Move on”に基づき、各組織が能動的かつ計画的に活動を展開することができたか。 ・文化祭をはじめとする生徒会主催行事において生徒が主体的に計画・運営し、職員が適切な助言・指導を行えたか。 ・クラブ活動の活性化をめざし、心身の成長を育むクラブ活動が行えたか。 ・PTS協議会および全校PTSの企画・運営を通じ、生徒の成長を促すことができたか。 ・社会貢献に繋がる活動としてエコマネージメントへの取り組みを進めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き新しいことにトライしようとする姿勢が多くの生徒会役員に見られた。職員も適切な助言・指導を行っている。 ・運動部、文化部ともに日常活動の充実を図るとともに、大会などで成果を上げている。 ・討論を通して互いの認識を深めるとともに、今年度はそれが成果として現れた。 ・継続してエコキャップ回収活動を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会の業務分担の精選と、より活発な活動がなされるよう各委員会の3役と顧問がより連携を深めていけるようにしたい。 ・クラブ監査のより良い在り方を模索するとともに、クラブの在り方を生徒自身が考えて、自主的・自律的な活動を行えるレベルを目指したい。 ・主体的な生徒に負担がかかり過ぎないように、適切な業務分担を心掛けたい。
	1 4	地域交流・ボランティア活動の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・花田養護学校との交流を充実させることができたか。 ・地域交流と各種ボランティアの奨励と活動の充実ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年以上に多くの生徒が参加してくれた。 ・諏訪湖周清掃、赤い羽根共同募金など、岡谷市や地域の各種団体と連携して活動できた。 ・AOHSにおいて市役所と連携して地域振興のための活動ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ボランティア活動や、AOHSでの活動を宣伝する機会を増やし、より多くの生徒の参加を促したい。

《学校運営領域》

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
学校運営	1 2	教職員のスキルアップへの取り組み	<p>教員一人ひとりが、研修・授業参観とそれに伴う意見交換を通して授業改善を行い、分かる授業を目指すとともに、新しい教育に向けてのスキルアップを図る取り組みができたか。</p>	<p>ICT機器の効果的な活用により、分かる授業を目指す姿勢が教員間で育まれた。また、学習指導委員会の設置により、今年度は授業改善を目的としたICT活用を検討中である。Wi-Fi環境の活用なども含めて、主体的・対話的に深い学びを引き続き模索していく。</p>	<p>今年度の探究学習を踏まえて、次年度は探究学習を学びの中心に据えた主体的・対話的に深い学びにしていかなければならない。その中で、効果的なICT機器の活用も模索していく必要がある。また、今年度は教員相互の授業参観が活発ではなかったのも、もっと気軽にお互いの授業を見ることができるよう工夫をしていかなければならない。</p>
	4	地域・保護者とのコミュニケーション	<p>本校の活動について、インターネット等を通じて地域や保護者に向けての広報および情報発信を行うことができたか。</p>	<p>今年度は、月に2～3回のペースで保護者に対してメール配信をすることができた。保護者アンケートにおいて、メール配信に対して肯定的な意見もあったので、引き続き保護者への定期的な連絡をしていく。</p> <p>12月の授業公開では、本校ホームページにおいてグループフォームによる中学生の申込を導入した。引き続き、中学生が参加しやすい授業公開の形を考えていく。</p>	<p>メール配信におけるアンケート機能を用いることで、生徒・保護者・教職員の安否確認を効率的かつ確実に伝えることがわかった。次年度は加入率100%を目指し、学校からの連絡だけでなく、多岐に渡ってメール配信システムを活用していく。</p> <p>中学生に対して、探究学習・ICT活用を効果的にアピールするための授業公開をしていく必要がある。</p>
	1 2 4	安全管理体制の確立と徹底	<p>日常的な安全管理に心がけるとともに、生徒、職員の意識向上を促すことができたか。</p>	<p>事前連絡無し、2次避難を含めた防災訓練は、現実にも即したものであり非常に効果的であった。教職員・生徒共に改善点を模索しやすく、今後の防災訓練に活かすことができる。また、生徒手帳記載の非常時の対応マニュアル周知をしていくことも必要である。</p>	<p>防災訓練においては、次年度も2次避難を含めて現実にもできるだけ即したものにしていこう。その中で生徒の防災意識を醸成していく。</p> <p>教職員・生徒共に、自身の身を守るための研修をほとんどしていない状況であるので、必要に応じて実施する。</p>